

令和5年度 指定管理業務 実績評価シート

作成年月日 令和6年6月21日

部課名 教育委員会 生涯学習課

施設名	弘前市総合学習センター (弘前市教育センター、弘前市立東部公民館、弘前市学習情報館)
施設の設置目的	多様化、高度化する学習ニーズに応え、学、社の密接な連携と相互補完により得られる効果のもと、市民の主体的な生涯学習を推進する中核施設として設置された。
所在地	弘前市大字末広四丁目10番地1
指定管理者名	アップルウェブ株式会社
指定期間	令和2年4月1日から令和7年3月31日まで
1 事業計画の実施状況	令和5年度事業計画に沿った管理運営を行っている。毎月の事業実施報告も遅滞なく行われている。
2 自主事業の実施状況	令和5年8月19日(土)、午前10時～11時30分、午後1時～2時30分 場所:2階 工芸室において、「ガラスの中の小さな森～苔テラリウム体験講座」を開催した。6才～70才代以上まで、計65組が参加し、ガラスの器に好みの苔や飾りを配置したオリジナルの苔テラリウムづくりを行い、楽しい時間を過ごしていたとの報告あり。 令和5年12月24日(日)、午前10時～12時、午後2時～4時 場所:2階 大会議室において、「おしゃれなミニ門松講座」を開催した。7才～70才代まで、計41組が参加し、ミニ門松に好みの飾り付けをしたオリジナルのミニ門松づくりを行い、楽しい時間を過ごしていたとの報告あり。
3 市民サービス向上のための取組状況	一階に公共機関や民間団体等のお知らせや資料、催事の案内やパンフレット等を収集し配置することやポスターを掲示している。また、広報ひろさきと連動したホームページの随時更新を行うことやFMアップルウェブのラジオ放送を使い、定期的に施設情報の提供を行う等市民サービス向上に努めている。 また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、消毒液、サーマルカメラを設置するなど、感染予防を徹底している。 そのほか、障がい者への対応の一環として職員の手話研修を継続的に実施したり利用者アンケート等による館内の改善を行っている。
4 市民ニーズの把握の実施状況	各貸室、受付カウンターにアンケート用紙を設置し、利用者の声の収集に努めている。 そのほか、館内他部署と連携を密にし、情報共有に努めている。
5 施設の利用状況(利用者数、稼働率など)	年間利用件数 3,699件(前年度比 208件減) 年間参集人員 77,700人(前年度比 2,852人減) ※令和4年度中は弘前文化センターが休館中のため総合学習センターの貸館件数等が増加したが、改修後の開館により文化センター利用にもどったことで減少しているものと考えられる
6 指定管理業務の収支状況	当初予算より人件費等の削減に努め、概ね収支均衡である。

7 実地調査の結果

使用許可、使用料の徴収、収納管理及び減免等、業務委託関係、財務状況を主に調査したが、使用許可等、建物管理の委託、収支の処理について概ね適正になされていた。

8 成果指標の達成度

年間利用件数 目標:3,743件 実績:3,699件 達成度:98.82%

年間会場利用率 目標:52.88% 実績:51.82% 達成度:97.99%

※新型コロナウイルス感染症の影響を受け、目標(令和元年度設定)を下回ってはいるが、現在は以前の状況にもどりつつある。

9 評価

(1) 指定管理者の自己評価

評価区分	評価	評価の説明	今後の課題と対応
施設の運営	A	利用者に対する心のこもった対応と確実な運営を心がけています。	利用者の要望の把握とサービスの提供、お客様の心に寄り添った窓口対応の一層の充実に努めます。
施設の管理	A	利用者の安全・安心と快適な空間を提供できるよう対応に努めています。	日頃からの丁寧な点検と安全・安心のための危機管理の向上に努めます。
経理の状況	A	概ね予算通りの執行です。	利用者へのサービス低下を招かない範囲での可能な経費削減に努めます。
団体の財務状況	B	会社全体の財務状況も概ね良好に推移しています。	コミュニティFMの優位性を生かし、市民に愛されるラジオ局として、市民への良質な情報の提供をするとともに財務基盤の強化に努めます。

(2) 市の指定管理者に対する評価

評価区分	評価	評価の説明	今後の課題と対応
施設の運営	B	複合施設での運営面での複雑さはあるが、概ね協定書通りの運営が行われていた。自主事業については、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を万全にとったうえで開催した。	社会教育等に寄与する施設として、更なる利用の促進のため、基本となるサービスの向上や快適な環境づくり、本施設の機能を生かした効果的な事業の実施を引き続き求めていく。
施設の管理	B	施設が老朽化してきているが、施設の管理は概ね良好に行われている。	長期での改修計画を立案する必要があり、関係部署と連携しながら進めていく必要がある。
経理の状況	B	収支均衡であり、概ね予算通りの執行が行なわれた。	今後とも適正な予算執行に努めていく必要がある。
団体の財務状況	B	概ね良好であり、施設管理が可能な経理的基盤を有している。	会社全体の財務状況を今後とも注視していく必要がある。

【評価の視点】

評価区分	評価の視点
施設の運営	法令等の遵守、使用許可、市の指定事業、付随業務、自主事業、公平性、職員配置・研修、開館時間・休館日、職員の接遇、利用者ニーズの把握・反映、事業計画の実施状況、業務報告など
施設の管理	利用者の安全対策、施設・設備の維持管理、個人情報の管理、文書等の管理、備品等の管理、緊急時対策、災害対策など
経理の状況	帳票等の整備、経理の区分、収支状況、経費の削減、帳簿等の保管状況など
団体の財務状況	安定的な施設の管理が可能な経理的基盤を有しているか

【評価の基準】

A	協定書・基準書等の内容を超える管理運営が行われたと判断できるもの (適正な管理運営に加えて、更なる取組みや成果があると評価できるもの)
B	協定書・基準書等の内容を概ね適正に実施していると判断できるもの (軽微な改善点はあったが、速やかに改善されているもの)
C	協定書等の内容に対して改善点はあったが、適切な改善策が講じられているもの
D	協定書等の内容に対して不履行があるものや、改善がなされていないものがあるもの

※「団体の財務状況」の評価基準

B	問題がない
C	今後に注意を要する
D	早急な改善を要する